

和歌山大 瀧学長に聞く 紀南に入学特別枠も



和歌山大学の学長に就任し、抱負を語る
瀧寛和氏

和歌山大学（和歌山市栄谷）の学長に今春、システム工学部教授から初めて、瀧寛和氏（59）が就任した。国立大学制度改革の議論が進み、地方大学の運営が大きく変わろうとしている中、県内唯一の国立大としてどう機能を強化し、使命を果たしていくのか聞いた。（聞き手・桑原弘次）

－システム工学部初の学長として、まず抱負を聞かせてください。

研究面で学外と厳しく競い合える体制をさらに強化したい。

国立大としては唯一、学部から博士まで観光学の課程を設けています。

観光学研究機関「国際観光学センター（仮称）」を開設する予定。設立20年を迎えたシステム工学部は、さまざまな科学技術

の融合について、より総合的に学べるように、本年度から再編しました。

－経済学部、教育学部については。

経済学部には農業経営を教育する「アグリビジネスコース」を設置を検討しています。農業は県の基幹産業なのに、和大はそれを研究する環境がなかつた。教育学部もタイのカセサート大学教育学部と交流して教育

「厳しく競える大学」

和歌山大学（和歌山市栄谷）の学長に今春、システム工

研究を深めるなど、各学部で機能強化を目指しています。

－国立大学改革の議論が進んでいます。

国から大学へ配分される「運営交付金」は毎年削られ、和大もぎりぎりの状態。さらに文部科学省は、改革の取り組み状況への評価で交付金の配分額に差をつける仕組みの導入を議論しています。和大としては先述の機能強化を進め、特色を出しながら「地域貢献」で勝負しているとあります。

－具体的にどう地域に貢献していくですか。

地域課題について、これまで教員が個別に取り組んでいました。これからは自治体と連携し、組織だって地域を支援していくたいと考えています。もう一つ、地域活性化も見据え、大学として学生らの起業支援を強化したい。システム工学部設置のとき、新産業の創出が期待されました。既存産業への支援はできていると思いますが、創出面での貢献度は十分でない。学生や卒業生が、もっと積極的にベンチャーを発想できるようにしたい。

－大学はそのような学生をどう育てていけますか。

学生が持つ可能性を十分に引き出し、その手助けをします。

素直で優秀だが、自分を過小評価する学生が多い。和大で勉強に励んだことを誇りに思い、卒業後は自信を持って社会で活躍してもらえるようにしたい。

－若者の県外流出が、地域の疲弊につながっているといわれます。

県内から和大への入学者は全体の3割程度で、その多くが卒業後、県内で就職しています。県内出身の学生が多ければ、自分が地元に残る若者も増えるでしょう。しかし、実は紀南からの入学者はそれほど多くない。和大でも通うには遠く、下宿が必要なため、どうせならと大阪や京都、東京に進学する学生が多いうからです。

－紀南から学生を取り込む方策はありますか。

入学者枠に紀南からの特別枠を設けたいと考え、文部科学省に申請しています。最初は教育学部が来年度の推薦入試で導入します。その後他学部にも広げたいと思います。田辺市にあります和大南紀熊野サテライトでの「オープニングバス」開催も検討しています。紀南の高校生に和大の魅力を伝えたい。

たき・ひろかず／大阪府茨木市在住。大阪大学大学院基礎工学研究科修了。三菱電機情報電子研究所、同設計システム技術センターなどを経て、1998年に和歌山大システム工学部教授。学部長、副学長を歴任。専攻は知識情報処理、人工知能など。